

インプラントと天然歯の共通点と相違点② 生体のルールを知っておこう！

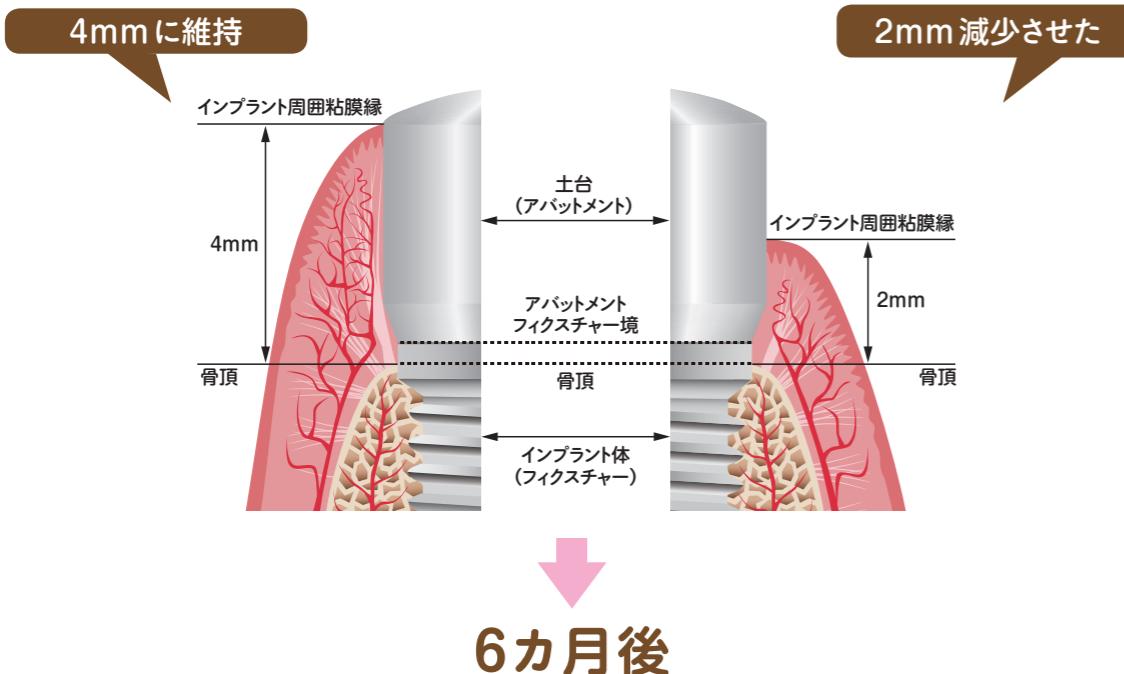
生物学的幅径とは生体のルール幅

生物学的幅径とは、生体のルール（決まり事）となる幅です。歯槽骨頂から歯肉溝底部までの歯肉の付着幅（天然歯は約2mm、インプラントは、約2.7mmです）のことをいいます。この幅は生体のルールなので、歯周組織はこの幅を常に維持しようと働きます。そのためこの幅が侵害されると、下記の実験のようにこの幅を維持しようと骨が無くなってしまいます。

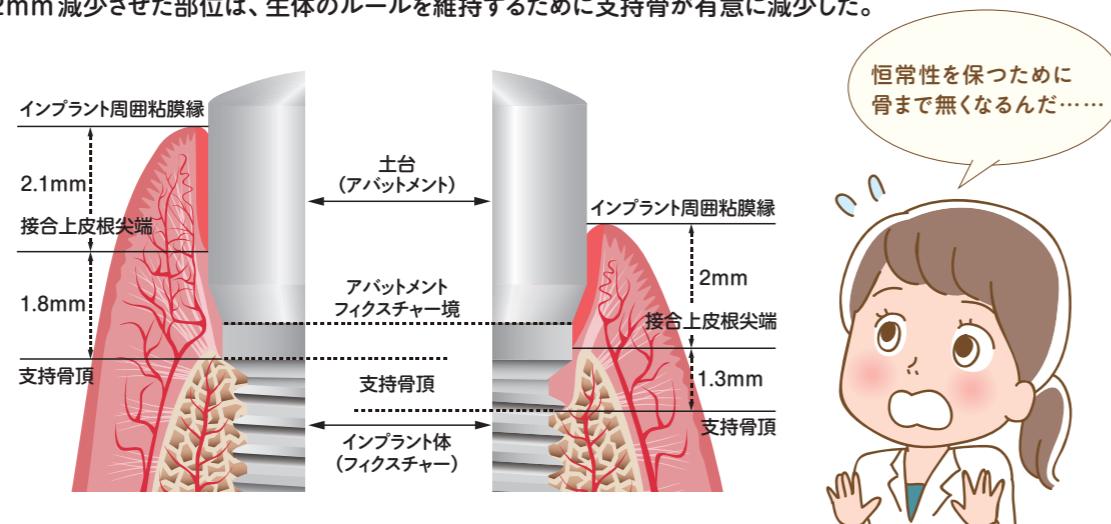


生体のルール幅の実験

インプラントの二次手術と同時に実験部位の粘膜を4mmに維持、一方は2mmに減少させた。



歯肉を2mm減少させた部位は、生体のルールを維持するために支持骨が有意に減少した。



インプラントの埋入深度と1年後の支持骨の変化

- ① インプラントは、最上部が骨縁に沿うように埋入するのがプロトコールですが、生体のルールにより、アバットメントを接続した1年後には、インプラントアバットメント界面から支持骨が約1mm減少します。
- ② インプラントの埋入位置がもし深すぎた場合、生体ルールを維持しようと骨が減ってしまうと、深いポケットになってメインテナンスが大変になり感染のリスクも大きくなります。
- ③ さらに、インプラントの埋入位置が深く周囲の骨が薄い場合は、審美性が求められる前歯などでは深刻な問題になることがあります。

